

令和5年度 学校経営計画及び学校評価（案）

1 めざす学校像

肢体不自由等の障がいのある児童生徒たちの将来を見据え、一人ひとりのニーズを的確に把握し、小・中・高一貫した教育活動において学力の基礎・基本を身に着けるとともに、キャリア教育を推進し、自立と社会参加へ向けて積極的に学ぶ人間の育成をめざす。

- 1 系統性・発展性のある教育活動を推進する学校
- 2 地域における教育・関係機関との連携を推進し、特色ある教育活動を発信する学校
- 3 人権尊重、危機管理の徹底および校内の課題に対し迅速な対応ができる学校
- 4 児童生徒の卒業後の自立と社会参加に向けより高い専門性・支援力を追求する学校

2 中期的目標

- 1 系統性・発展性のある教育活動を推進する学校
 - (1) 学習指導要領に基づいた段階別の系統性を持った教育課程の編成を行い、個別の指導計画に基づいた教科学習を位置づける。
 - (2) シラバスとキャリアプランニング・マトリックスの関連性を確立させ、発展性のある教育活動の向上をめざす。
- 2 地域における教育・関係機関との連携を推進し、特色ある教育活動を発信する学校
 - (1) 大阪整肢学院との連携を継続し、適切な実態把握と一人ひとりのニーズに基づいた「身体への教育的アプローチ」を含む自立活動指導の向上。
 - (2) 教育実践×ICT機器の活用に向けた教材・支援機器の活用実践を進め、その授業実践を蓄積する。(ICT機器活用実践の蓄積⇒令和4年度より各年度20事例×3年【R4 22事例】【R5 】)
- 3 人権尊重、危機管理の徹底および校内の課題に対し迅速な対応ができる学校
 - (1) 日常的な危機管理を徹底し、児童生徒が「大切にされている」と実感できる安全で安心な指導・支援を行う。
 - (2) 保健・安全・衛生管理・防災等に関して大阪整肢学院と連携し学びを支える環境整備を行う学校づくり。
 - (3) 業務負担の見直しや適正化を進め教職員の健康管理と意識改革。
- 4 児童生徒の卒業後の将来を見据えた自立と社会参加に向けより高い専門性・支援力を追求する学校
 - (1) 早期からのキャリア教育の充実を推進し、児童生徒一人ひとりの自主性・自立性を育成する。
 - (2) 地域への貢献と支援教育に関する専門性を向上し追求する姿勢をもちながら、支援教育の充実を推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>結果と分析</p> <p>(1) 学校に対する意識 児童生徒、保護者ともに肯定的意見が9割以上と高評価であった。児童生徒については、昨年度より12%増となっている。引き続き、児童生徒や保護者のニーズ等を的確に把握し、それらに応じた教育活動をより一層推進していきたい。</p> <p>(2) 学習指導・教育活動に関するもの 授業のわかりやすさについての設問において、ICT機器の活用に関する項目の肯定的意見が高いことから見て取れるように、児童生徒の肯定的意見が100%だった。それに対し、保護者の肯定的意見及び“わからない”の合計が59%となっており、児童生徒との乖離が顕著に見られる。項目20の自由記述欄に「教員の方々と話をする機会がほとんどなく、学校でどんなことをしているか不明なことが多いと感じます」との意見があり、日々の児童生徒の学校生活の様子や教育情報の共有方法に課題がある。</p> <p>(3) 生徒指導に関するもの カウンセリングマインドを取り入れた指導についての教職員への設問は、8%増で82%だった。一方、児童生徒の受け止めとしては肯定的意見が100%であり、教員が児童生徒と接する際に、相手の立場に立ち理解しようとする態度で日々教育活動を行っていることが一定評価されていると考えられる。</p> <p>(4) 進路指導に関するもの キャリアプランニング・マトリックスのシラバスへの組み込みやキャリア教育、学部の垣根を超えた進路支援の取組み(小学部・中学部段階でのワークキャリア体験)の充実等、進路指導に向けた取組みにより、保護者及び教職員の肯定的意見が増加し、肯定的意見が児童生徒で8割、保護者が6割、教職員が8割となった。しかし、児童生徒からの評価が昨年度と比べると-16%と大幅な減少が見られ、また保護者から肯定的意見も増加傾向にあるものの高くはない。</p> <p>(5) 道徳教育・人権教育に関するもの 児童生徒および教職員については、8割以上と高評価だが、保護者については、肯定的意見が5割、否定的意見が3割と昨年度とほとんど変わらない結果であり、評価されているとは言い難い。自由記述欄にもあるように、児童生徒の名前の呼び方や日常生活の様々な言葉かけ等、常日頃から子どもたちの人権を尊重・意識した態度や接し方になるよう徹底しなければならない。また、自らの人権意識を高め、人権意識を絶えず見つめ直すことができるよう、計画的に人権研修を進めていきたい。</p> <p>(6) 情報提供に関するもの 情報提供に関する項目については、教職員と大阪整肢学院・保護者の結果で、昨年度と同様、大きく乖離がみられた。自由記述欄にも「学校でどんなことをしているのか不明なことが多いと感じている」「下校の際に、変わったことや子どもが楽しんでいたことなどを教えていただけたら互いの情報共有もしやすいと思う」といった意見がみられる。大阪整肢学院・保護者との連絡帳代わりとなるような日常生活における簡易的な児童生徒情報の共有・コミュニケーションや、外部発信のさらなる努力等については引き続き検討する</p>	<p>【第1回 令和5年6月28日(水)】</p> <p>①学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ヒヤリハット・インシデントの事例検討について、汎化されたもので学ぶだけでなく、校内で実際に起こった事案について検討することで、より実践的で身近なものとして学び、生かすことができる取組みだと感じた。 <p>②授業見学について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICTが普通に使われていることに驚いた。これからの教育のスタンダードを見学できたように感じた。 ・ ICTはただ使えば良いというものではなく、子どもたちの力を引き出すためのツールであり、指導者のキャラクターやスキル、思い、ICTをどう扱うか等々、先生方のエネルギーやパッションがそのまま伝わってくる授業で、先生方の元気な姿を見られてよかった。 <p>③その他 (感染症対策について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルスへの対応については、教育機関と医療機関では捉え方・考え方が全く違うこともあり、お互いに話し合っ考えていきたい。 <p>(ボランティア講座の開催予定について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夏季休業中は空調工事のため学校が使えないため、9月初旬の土曜日に実施を考えている。1, 2週目くらいだと授業はまだ始まっておらず、大学生が参加しやすいと考え、計画している。(9月9日(土)に実施) <p>【第2回 令和5年12月1日(金)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スパイダーやスノーブレンの検証型事例検討会について検証するための指標は、どういうものを使われているのか。 <p>→ 具体的な指標はなく、身体への教育的アプローチというかたちで、これまで継続して取り組んできた結果として子どもたちがどうなったか、どれだけ出来るようになったか、また、この後子どもたちが成長するためには、どのような取組みを行うとよいかについて共有し、講師より指導助言をいただく。子どもたちが成長した点とこれからの課題、また先生方の疑問点について、先生方と助言をいただいた先生で定点観測的に行うものとしての事例検討会の場として考えている。個別の指導計画にも反映させている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域として支援学校のみなさんが参加できるような企画を考えていきたいので、ご意見があれば教えてほしい。中津中央公園や福祉会館(車椅子利用可能)なら利用可能。 <p>→ 先日行われていた中津万博に何とか出展できないかと検討したが、土日の参加となると難しかった。しかし、平日の校外散策等で会場付近を回り、ここでこんな事が行われる等といった場所の確認をするかたちで参加した。学校として、常に地域でできることを探しているの、いただいたお言葉はとても力強いもので、ありがたい。</p>

<p>(7) 学校教育への保護者の参画に関するもの 大阪整肢学院・保護者の肯定的意見が85%と昨年度同様に高く、児童生徒の学校での様子や学校教育への関心や期待感の高さの表れと捉えることができる。「(6) 情報提供に関するもの」でもあるように、日々児童生徒の様子を共有しておくことで、子どもたちの成長について大阪整肢学院・保護者と共感でき、家庭との連携を深められ、一貫した支援に繋がるきっかけの一つになると考えられる。</p> <p>(8) 児童生徒理解に関するもの 教職員では肯定的意見が98%と非常に高くなっているが、保護者の意見とは差異がある。保護者や第三者からの視点や意見等について、常日頃から大阪整肢学院の看護師や保育士、介護福祉士の方々とのコミュニケーションを図りたい。 障がい理解についての項目は、保護者からの肯定的意見が56% (+4%)、否定的意見が26% (-7%) であった。また、肢体不自由児に対する支援学校としての専門性についての項目では、保護者からの肯定的意見が48% (+3%)、否定的意見が33% (-11%) であった。学校経営計画に挙げられている「適切な実態把握と一人ひとりのニーズに基づいた『身体への教育的アプローチ』を含む自立活動指導の向上」として、大阪整肢学院や関係機関にも「FBM」「スパイダー」「スヌーズレン」等の研修会や教育実践×ICT 機器活用としての支援機器・支援教育実践研修会に参加していただいたことにより、少しずつ、肯定的に捉えられてきていると推測される。</p> <p>(9) 学校運営 校長のリーダーシップに関する項目では、肯定的意見が5%、否定的意見が昨年度より12%増だった。「Ⅲ. 学校教育改善のための提案」での自由記述に「学校滞在時間をなにながなんでも削減する」、「校長の独断ではなく、教職員の意見も聞いてもらいたい」といった意見が見られるが、働き方改革においては、大阪府が示す働き方改革に向けた取組みについて、校長が独断で行っているものと誤認していると考えられる。また、残業する際の手順方法や、学校経営計画の作成にあたり、個々の教職員の意見を反映できるよう、意見を募っていることなど多岐にわたる取組みをされているが、教職員の意識づけに課題がみられる。今年度、校務運営の効率化を図るため、校務分掌における組織改編を行っている。首席や10年経験者研修対象者のようなミドルリーダーを中心とし、管理職と教職員との情報伝達が円滑な組織をめざす。</p> <p>(10) 学校組織に関するもの 学校予算、事案発生時の役割分担、施設・設備の点検・管理、個人情報管理、各種研修に関する設問では、どれも肯定的意見が8~9割と高評価だった。防災についての項目は肯定的意見が100%であり、事件・事故・災害等に対する対応についての項目においても、93% (+12%) だった。防災アドバイザー派遣事業によるアドバイザー監修の研修や実践的な避難訓練の実施、大阪整肢学院や中津保育園等の地域と連携した取組みが一定評価されていると考えられる。</p>	<p>【第3回 令和6年1月25日(木)】</p> <p>①学校経営計画について ・学校教育計画3(3)ーイに関する学校教育自己診断での結果として、肯定的意見が78%とある。これは、毎週水曜日の全校一斉定時退庁日を設定していることで、78%の教職員が実際に提示退庁できているということか。 →78%は、学校教育自己診断(教職員用)の項目26についての指標であり、働き方改革全般に関する質問事項なので、定時退庁に限ってはいない。毎週水曜の一斉定時退庁については、今年度始まってから今まで5時30分頃には全教職員が退庁できている状態が続いている。</p> <p>②学校教育自己診断について ・大阪整肢学院でも保護者向けに患者満足度調査を実施しているが、回収率がいつも低い。実施方法としては、来院された方の方にのみ配付している。学校では、どのように実施されているのか? →フォーム作成ツールのQRコードを掲載した書類を送付している。 ・学校が寒いという否定的意見等が多い。 →その日の気温に応じて、児童生徒の登校前から教室を温める等、可能な限り対策している。医療現場と学校では、設定温度等が異なり、また本校は府立学校として他校との足並みを大きく変えることはできない。登校時の服装等や準備物等、大阪整肢学院においてご理解を深めていただき、ご協力をお願いしたい。</p> <p>③その他 ・今年は特に充実した取組みが多く、先生方の努力を感じることができた。進路の意思決定等、子どもたちにとって世の中に出ていく糧として、素晴らしい取組みであり、今後も続けていってほしい。特総研での研修は、日本全国の先生方との情報共有ができ、研修期間中は大変だったと察するが、本人だけでなく学校にも大きな財産となったと思う。また、学校教育自己診断(児童生徒用)の項目「周りの人々を大切にすることができる」の結果が100%ということにすごいと思い、感動した。 ・ドラムフェスタは、学生にとって大学では得られない学びの多い機会だった。継続はしていきたいと考えているが、次年度の事になるので調整が必要。 ・次年度の「中津ブランド」の販売については、お知らせいただければ、地域としても応援、協力したいので遠慮なく声をかけてほしい。進路指導で頑張っている生徒の話について、日常生活の様子からでは想像しにくく、感心した。 ・コロナ禍においても地域や学校運営協議会の委員と繋がりを持ち続け、子どもたちのために、更に広げていこうと様々な活動に取組まれてきた3年間が、今の子どもたちの力になっているように思う。学校として攻めの姿勢をこれからも応援していきたい。</p>
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 系統性・発展性のある教育活動を推進する学校	(1) 学習指導要領に基づいた段階別の系統性を持った教育課程の編成	ア・イ共通 教育課程検討委員会において校内の学習内容を確認しその系統性、発展性のある学習内容になるよう精査を進める。	ア 教育課程検討委員会を開催し全校的な学習の系統性、発展性を確立させる ⇒年3回 イ Ⅲ類型(自立活動を主とした教育課程)において学習内容の見直しを進め、授業と教育課程のつながりを明確化しコミュニケーション(国語・ことば)や認知(かず・算数・数学)について教科化を進める ⇒かず・ことば(2教科)の教科化	・教育課程検討委員会の開催(5月・6月・9月・10月)後、各教科会で検討した結果を一覧表として提示した。 段階設定を見直したことにより、全校的な学習の系統性、発展性について教職員が教科を超えて把握できるようになった。 ⇒年4回実施(○)
	(2) シラバスとキャリアプランニングマトリックスの関係性を確立する。	ア 試案を作成したシラバスとキャリアプランニング・マトリックスの関連性を示す様式を活用し、教職員の理解深化に務める。	ア 試案の本格活用を進め、理解深化に務める。学校教育自己診断(教職員)教育活動における評価及び次年度の計画に活かすの項目前年度以上 ⇒【R4 84%】	・R7年度のⅢ類型の教科に向け、教科のシラバス作成を行うように取組みを進めており、教職員の理解深化も進んでいる。自立活動と教科学習の視点を分けた取組みをさらに進めてまいりたい。 ⇒ロードマップの作成済 個別の指導計画 評価欄への評価欄の教科名の記載について作成することができた。 教科化については、なお1年の検討を要する(△)
				・今年度、シラバスとキャリアプランニング・マトリックスの関連性を示す様式の活用により、教職員の理解は進み、キャリア教育の視点を意識した授業の在り方は進んでいる。 ⇒R5 88%(◎)

府立中津支援学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 地域における教育・関係機関との連携を推進し、特色ある教育活動を発信する学校</p>	<p>(1) 大阪整肢学院との連携を継続し、適切な実態把握と一人ひとりのニーズに基づいた「身体への教育的アプローチ」を含む自立活動指導の向上。</p>	<p>ア 大阪整肢学院リハビリテーション部と連携した研修会の実施 リハビリテーション部のセラピスト (OT. PT. ST) による勉強会の実施</p> <p>イ 児童生徒への「身体への教育的アプローチ」教職員の理解の深化に務める</p>	<p>ア アンケートによる肯定的回答 ⇒75%以上</p> <p>イ 「FBM」「スパイダー」「スヌーズレン」等において外部講師を招聘し、効果検証型事例検討会を行う⇒年2回以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回自立活動校内研修会 5月26日(水)実施 大阪整肢学院 大野小百合 PT ⇒肯定的回答 80% 第2回 12月実施予定 「スヌーズレン教育について」 和歌山県立紀伊コスモス支援学校 藤澤 憲 教諭 ⇒85% (◎) ・「FBM」研修…8月21日実施。12月に効果検証型事例検討会を実施 「スパイダー」研修…8月25日。12月に効果検証型事例検討会を実施 ⇒年2回「身体への教育的アプローチ」について、継続的に取り組んでいることで、教職員の理解深化は深まり、自立活動における専門性の向上は深まっている。(○)
	<p>(2) 教育実践×ICT機器の活用に向けた教材・支援機器の活用実践を進め、その授業実践を蓄積する</p>	<p>ア 教職員の「一人1研究」において成果物を作成することで実践事例を蓄積</p> <p>イ ICT・支援機器の活用や校内での支援教育の実践を校外へ発信する</p>	<p>ア 実践事例・教材教具の原稿作成 成果物の作成⇒23以上 【R3⇒15/R4⇒22】</p> <p>イ 蓄積している実践事例について、冊子作成を行うための試案の作成 ⇒R3・R4の蓄積事例の整理【37事例】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例・教材教具の原稿作成 成果物の作成⇒35本 (◎) ・蓄積した実践事例を集めた冊子を11月に完成することができた。地域支援および交流校に発信。 ⇒R3・R4・R5 60事例以上を掲載できた (◎)

府立中津支援学校

<p>3 人権尊重、危機管理の徹底および校内の課題に対し迅速な対応ができる学校</p>	<p>(1) 日常的な危機管理を徹底し、児童生徒が「大切にされている」と実感できる安全で安心な指導・支援を行う。</p> <p>(2) 保健・安全・衛生管理・防災等に関して大阪整肢学院と連携し学びを支える環境整備を行う学校づくり。</p> <p>3) 業務負担の見直しや適正化を進め教職員の健康管理と意識改革</p>	<p>ア 外部講師を招聘し、児童生徒の人権について理解を深める</p> <p>イ 児童生徒に関する問題事象について意識向上を図る</p> <p>ア 教職員による医療的ケア実施体制の構築</p> <p>イ 大阪整肢学院や地域の関係機関と連携し共同訓練や研修を行う</p> <p>ア 校務全般に係る業務の見直しと校務分掌の再編</p> <p>イ 教職員の健康管理と意識改革</p>	<p>ア 「社会的養護」の必要な児童生徒の理解と支援について 子ども家庭センター職員による研修の実施⇒年1回</p> <p>イ 年度内のインシデント事象の事例集を作成し事例検討する⇒年1回</p> <p>ア 学校看護師による教職員の手技確認機会を設定する(年4回) 医ケア担当者以外の教職員へのシミュレーター研修の実施 ⇒(各学部年1回)</p> <p>イ 教職員と大阪整肢学院職員による防災に係る共同研修を開催 ⇒②学校教育自己診断(教職員)防災に関する項目 今年度以上【R4 90%】</p> <p>ア 校務スクラップPTおよび校務分掌再編PT会議により業務の見直しを図る(5項目以上の校内業務のスクラップおよび8分掌⇒6分掌に見直す)</p> <p>イ 全校一斉定時退庁日の確実な実施と首席・部主事会において、グループウェアの活用について協議を行い、会議の時間短縮具体的方策の導入。 ⇒学校教育自己診断(教職員)新規項目(60%以上)</p>	<p>・テーマ:「大阪府子ども家庭センター」がかかわる子どもたち～子どもと支援者の安心安全を守るため～ 講師:大阪府東大阪子ども家庭センター 育成支援第二課長 島 ゆみ 様 ⇒9月13日実施 アンケート結果により95%以上の参加者が研修内容は充実していたと回答。(◎)</p> <p>・12月に各学部、各グループにおいて4事例を検討した。検討内容を校務PCの校内掲示板に掲載することで、各事例での意見集約を共有することができた。⇒年1回/4事例(○)</p> <p>・9月以降看護師の雇用。10月～12月にかけて手技確認の機会を設けることができた。 ⇒年4回(○)</p> <p>・担当者以外シミュレーター研修の実施 11月28日までに順次実施し完了。 医療的ケアの手技の理解を深めることができた。 ⇒年1回(○)</p> <p>・6月27日(火)大阪市北区役所防災担当を招聘し、「北区の防災について」研修を行った。12月6日(水)に共同避難訓練を実施。また、今年度「学校防災アドバイザー派遣事業」により、防災アドバイザーの参加。「より実践的な避難訓練」の実施について想定についての助言をもらうことで、教職員の防災に関する意識は飛躍的に向上した。 ⇒100%(◎)</p> <p>・校務分掌再編PT PTを中心に次年度より6分掌に見直しを進めるよう2学期中にロードマップを明示。12月職員会議において次年度の分掌部再編組織図(案)も教職員に提示。次年度の分掌業務を確認。現在、再編内容の引継ぎ資料の整理を旧分掌内で整理しているところ。 ⇒8分掌→6分掌に見直し、体制を確認 校内業務スクラップについては、15項目にわたりスクラップできた。(○)</p> <p>・フォーム作成ツールの活用により職員会議資料の電子化、職員朝礼記録の電子化、教職員の欠席連絡等を行っている。資料の印刷・配布に係る時間や、電話連絡等の時間が大幅に縮減。教頭の働きかけ、安全衛生委員会の積極的な取組みにより全校一斉退庁日が概ね定着。毎週水曜日は、ほぼ、17:30に全員が退庁している。 ⇒75%(◎)</p>
---	--	--	---	---

府立中津支援学校

<p>4 児童生徒の卒業後の将来を見据えた自立と社会参加に向けより高い専門性・支援力を追求する学校</p>	<p>(1) 早期からのキャリア教育の充実推進し、児童生徒一人ひとりの自主性・自立性を育成する。</p> <p>(2) 地域への貢献と支援教育に関する専門性を向上し追求する姿勢をもちながら、支援教育の充実を推進する。</p>	<p>ア 早期からのキャリア教育の充実</p> <p>イ 高等部段階における自主性・自立性の育成</p> <p>ア 地域における支援教育力の向上をめざし専門性の向上を図る</p> <p>イ 障がい理解推進のための取組みを進める</p>	<p>ア 小・中学部におけるワークキャリア体験として清掃/委託作業活動における授業の実施 ⇒ (年2回)</p> <p>イ (株)ユニクロによる「届けよう服のチカラ」プロジェクトに参加し、SDGsの学習や地域と連携した子ども服の回収活動を行う。 ⇒地域連携機関との連携 (年2回)</p> <p>ア リーディングスタッフ1人を令和5年度国立特別支援教育総合研究所特別支援教育専門研修員に派遣 肢体不自由専修プログラム受講予定 ⇒1人</p> <p>イ 大阪音楽大学の大学生との交流活動 ドラムフェスタの実施 ⇒ (年1回)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目(7月) 委託作業に係る体験学習を実施。 ・第2回(12月) 販売に係る体験実習 ・第3回(2月) 清掃作業の体験実習を実施 ⇒年3回(◎) ・(株)ユニクロよりプロジェクトの概要や取組みの意義について、高等部生徒への授業を実施(7月)。今後、地域への発信として服の回収作業等について現地での説明会も実施(近隣保育園・社会福祉協議会等) 現在、回収中。今年度は、社会福祉協議会の協力を得て、地域の公園掲示板にもポスターを掲載。 ⇒地域連携機関との連携 年3回(◎) ・5月8日～7月7日まで研修受講 12月実施の「支援機器活用・支援教育実践研修会」を開催し、他校から参加の教職員に向け「ユニバーサルデザインについて」研修を開催。3月実施の校内研修会において国立特別支援教育総合研究所特別支援教育専門研修員派遣での取組みについて校内研修実施 ⇒1人(○) ・12月8日(金)にドラムフェスタを実施 参加学生⇒13人 肯定的回答85%(◎) その他にも、学校運営協議会委員より見学参加者の依頼もあり、校内での取組みを地域関係者にも見学いただいた。
---	--	---	---	---